

●1年次 履修例

春学期

曜日	月	火	水	木	金	土	集中
1講時						療養支援 看護学特論 (4~5月)	
2講時							
3講時				看護理論 (4~5月)		クリティカル 看護学 特講Ⅰ (5~6月)	
4講時							
5講時				看護研究 方法論 (4~5月) 看護継続 教育学 (6~7月)		クリティカル 看護学 特講Ⅱ (6~7月)	
6講時							

秋学期

曜日	月	火	水	木	金	土	集中
1講時						看護と経済 または クリティカル 看護学 特講Ⅲ (9~1月)	
2講時							
3講時						看護政策論 または クリティカル 看護学演習 (10~1月)	看護と法律 (12月)
4講時							
5講時							クリティカル 看護学 特別演習 (9~10月、 12月、2月)
6講時				看護と環境 (10月)			

● 在学生からのメッセージ

臨床で経験を積み重ねていく中で、本当にこれで良いのか疑問を持ちながら働き、このまま働き続けて良いのだろうかと感じていました。そんなとき、関東学院大学に看護学研究科が設置されるお話を伺いました。先入観や既成概念にとらわれず、高度な看護学の専門的知識や能力を修得することができることや、総合大学として他学部、研究科とも垣根を越えた学習に取り組めること、なにより現在の就業を継続しながら学びを深めることができる点に魅力を感じ、看護学に関する実践的で幅広い知識を身に付け、もっと看護師として専門的に関わりを持てるようになりたいと思い、進学を決めました。

クリティカルケア看護領域は、2名の院生でスタートしました。春学期は、全領域の院生6名の共通科目が平日の午後、土曜日には専門科目の授業が入るスタイルでした。実際に授業を受け始めてからも平日でも、授業の曜日はほぼ固定されていたり、フレキシブルに対応頂けるため、仕事をしていても予定が立てやすく、院生全員が働きながら学習ができる環境が整っていました。また少人数制であるため、年齢に関わらず頻繁に連絡をとったり、同じ目標を持ちお互いに刺激を受けながらも助け合うことのできる仲間がいることは何よりも心強く、少々苦しくても学習を続けられる支えとなっています。

クリティカル看護領域の講義では、クリティカルケア領域における患者管理や家族看護に必要な基礎知識、倫理的課題などについての知識を深めています。いままで臨床で経験してきたことが理論などを基に根拠づけられたり、先行研究に基づいた新たな知識が増えていくことは今後の研究や実践への意欲に繋がります。また、自分の研究疑問に対しどのように研究を進めていけばよいのか、方法論についてなどは先生方が親身になって一緒に検討して下さい、的確な助言やご指導をいただくことができ、楽しみながら学ぶことができています。

入学当初は、仕事と学業の両立に不安もありましたが、大学院で学べたことを翌日からの仕事に活かす事もでき、学びを深めるにはとても良い環境だと感じています。授業の進行も無理の無いよう時間調整をして下さり、関東学院大学の大学院で学べて良かったと実感しています。ぜひこれから一緒に学ぶ仲間が増えることを楽しみにしています。

北澤友美 高倉加代